

月刊  
JMTU ティンモカ



NO MORE TENANMON

4月号

日本金属製造情報通信労働組合大田地域支部  
セガ グループ分会 2025 年発行

No,484

# 25年春闘 夏季一時金妥結

私達労働組合JMIUは  
春闘・夏季一時金の会社の回答  
について、執行部了承で妥結に  
向かうことを会社に伝えまし  
た。

## セガ回答

### 賃金引上げ

(一般正社員(Lp 格以下)  
基本昇給分

(ステージ変更による賃金改  
定) (令和7年度基本給テーブ  
ル(別表1)、ステージポイン  
ト対応テーブル(別表2)によ  
る)

基本給 個人評価額

6095円(平均)

実施日は令和7年7月1日

別表2. ステージポイント対応テーブル

Lp									
	R9	R8	R7	R6	R5	R4	R3	R2	R1
8	60	40	20	15	10	0	-5	-20	-30
7	60	40	20	15	10	0	-5	-20	-30
6	60	40	20	15	10	0	-5	-20	-30
5	60	60	40	20	15	10	5	-10	-20
4	60	60	40	20	15	10	5	-10	-20
3	60	60	40	20	15	10	5	-10	-20
2	60	60	40	20	15	10	5	-10	-20
1	60	60	40	20	15	10	5	0	0

Gp									
	R9	R8	R7	R6	R5	R4	R3	R2	R1
14	60	60	40	20	15	10	5	-10	-20
13	60	60	40	20	15	10	5	-10	-20
12	60	60	40	20	15	10	5	-10	-20
11	60	60	40	20	15	10	5	-10	-20
10	60	60	40	20	15	10	5	-10	-20
9	60	60	40	20	15	10	5	-10	-20
8	60	60	60	40	30	20	10	0	-20
7	80	80	60	40	30	20	10	0	-20
6	80	80	60	40	30	20	10	0	-20
5	100	80	60	40	30	20	10	0	-20
4	100	80	60	40	30	20	10	0	-20
3	120	80	60	40	30	20	10	0	-20
2	120	80	60	40	30	20	10	0	-20
1	120	80	60	40	30	20	10	0	-20

夏季一時金

基本給の3ヵ月分

平均 105万9148円

支給日 6月20日予定

その他の要求事項には応じら  
れない。

<別表：令和7年度給与テーブル表>

別表1. 基本給テーブル

等級	Gp	Lp	
ステージ	基本給	基本給	ポイント
14	330,100	-	260~280
13	320,600	-	240~255
12	311,100	-	220~235
11	298,600	-	200~215
10	288,900	-	180~195
9	279,200	-	160~175
8	271,300	473,400	140~155
7	266,300	455,200	120~135
6	261,300	437,000	100~115
5	256,300	415,000	80~95
4	251,800	396,800	60~75
3	247,300	374,900	40~55
2	242,800	356,700	20~35
1	238,300	338,500	0~15

別表3. 個人評価係数テーブル

等級	S	A+	A	B+	B	B-	C
一般職	1.20	1.10	1.05	1.00	0.95	0.90	0.80



# SLS回答

一般正社員(MS格以下)

賃金引き上げ額(平均)

本給 728円

評価給 2434円

調整給(一律) 4000円

合計 7162円

実施日は2025年4月1日

夏季一時金

係数 2.2

平均 796247円

支給日 6月20日予定

インセンティブ

第30期経常利益実績に対するインセンティブ支給時に、賞与係数0.8の支給原資を加算したインセンティブを支給する。

支給日 5月30日

〈別表1 本給テーブル〉 (単位 円)

年齢	本給	差額	年齢	本給	差額	年齢	本給	差額
18	95,730	650	31	105,580	1,250	44	120,630	1,050
19	96,380	650	32	106,830	1,250	45	121,680	800
20	97,030	650	33	108,080	1,250	46	122,480	800
21	97,680	650	34	109,330	1,250	47	123,280	800
22	98,330	650	35	110,580	1,150	48	124,080	800
23	98,980	650	36	111,730	1,150	49	124,880	800
24	99,630	650	37	112,880	1,150	50	125,680	400
25	100,280	650	38	114,030	1,150	51	126,080	400
26	100,930	650	39	115,180	1,150	52	126,480	400
27	101,580	1,000	40	116,330	1,150	53	126,880	400
28	102,580	1,000	41	117,480	1,050	54	127,280	400
29	103,580	1,000	42	118,530	1,050	55	127,680	-
30	104,580	1,000	43	119,580	1,050	56~59	127,680	-

資格	昇給前評価給のレンジ内位置	評価5	評価4	評価3	評価2	評価1	評価0	評価-1
配分割合		個別設定	3%	7%	15%	75%	個別設定	個別設定
MS2	2/3~上限	20,000 ~ 17,000	14,000	11,000	8,000	5,000	0	-6,000
	1/3~2/3	20,500 ~ 17,500	14,500	11,500	8,500	5,500	0	-5,500
	下限~1/3	21,000 ~ 18,000	15,000	12,000	9,000	6,000	0	-5,000
MS1	2/3~上限	14,000 ~ 12,000	10,000	8,000	6,000	4,000	0	-5,000
	1/3~2/3	14,500 ~ 12,500	10,500	8,500	6,500	4,500	0	-4,500
	下限~1/3	15,000 ~ 13,000	11,000	9,000	7,000	5,000	0	-4,000
A2	2/3~上限	10,000 ~ 8,600	7,200	5,800	4,400	3,000	0	-4,000
	1/3~2/3	10,500 ~ 9,100	7,700	6,300	4,900	3,500	0	-3,500
	下限~1/3	11,000 ~ 9,600	8,200	6,800	5,400	4,000	0	-3,000
A1	2/3~上限	7,000 ~ 6,200	5,400	4,600	3,800	3,000	0	-3,000
	1/3~2/3	7,000 ~ 6,200	5,400	4,600	3,800	3,000	0	-3,000
	下限~1/3	7,000 ~ 6,200	5,400	4,600	3,800	3,000	0	-3,000

〈別表3 賞与資格別基準〉

MS2	220,000円
MS1	200,000円
A2	160,000円
A1	140,000円

〈別表4 賞与評価ポイント〉

MS2	260	230	200	170	140	110	80
MS1	215	190	165	140	115	90	65
A2	180	160	140	120	100	80	60
A1	160	140	120	100	80	60	40

## ひとつの選択

仙洞田一彦

こんな時に、なぜこんな考  
えが浮かぶのか、自分にも理  
解できなかった。出勤の途中  
どこかで「戦後八十年」など  
という言葉を目にしたからだ  
ろうか、覚えもない。

私にとってその時代は、曾  
祖父母、ひいじじ、ひいば  
の時代だ。ひいじじ、ひいば  
ばがいまの私の歳の頃、中国、  
当時は満州と呼ばれていたと  
ころに住んでいたらしい。私  
が生まれた時、ひいじじはす  
でに亡くなっていたし、ひい  
ばも私の幼いころに亡くな  
っていたから、直接聞いた話  
ではない。聞いたとすると祖  
父母か、父から断片的に聞い

たのだろう。それに加えて学  
校で学んだり、本で読んだり  
した歴史の知識の断片も混入  
している。

その時代、つまり戦争の末  
期、日本の敗戦間際と思われ  
るが、このまま、ここ満州に  
いては敵、ソ連兵が来て危な  
いから逃げようと、ひいじじ  
一家は、満州から日本に引き  
揚げて来たそうだ。

逃げ遅れた人たちは、大変  
な目にあつて、多くの人が殺  
され、亡くなったらしい。生  
きて帰れた人も、命からがら  
の状態で、日本にたどり着い  
たようだ。

ひいじじは、敵攻撃の危険  
をいち早く知るところにいて、  
逃げる事ができたのだ。だか  
ら今の私があるのだが。  
おそらく中学時代の授業だ

ろう。「満蒙開拓団」「引揚者」  
というような話が出た時だ。  
教室から「ずるい」「きたねえ」  
という声が出た。いち早く危  
険を察知したものが、多くの  
人々を置いてきぼりにして、  
さつさと逃げた人々に向けて  
言った言葉だ。自分だけ助か  
りやがって、ということだろ  
う。

私は、ひいじじたち家族の  
ことを、すでに少しは聞いて  
いたのだろう。私にとっては、  
ひいじじに向けられた言葉の  
ようにも聞こえた。無論、学  
校でそんな話をしたこともな  
いし、その後も話してはいな  
い。

ひいじじは逃げる時、周り  
のみんなに危険を知らせたの  
だろうか、と思った。たとえ  
ば津波が来たとき、私は経験

がないけど、その時は、自分  
も逃げながら「逃げろ、津波  
だ」と大声を出しながら逃げ  
るだろう。

「みんな一緒に逃げよう」と  
声を掛けたのなら、ずるくも  
ないし、きたなくもない。一  
緒に行動するかどうかを問う  
ていて、強制ではなく、それ  
ぞれの意思に従ったのなら、  
教室から出た、誹謗の言葉は  
当たらない。

ひいじじは危険が迫ってい  
ることを、みんなに黙って、  
ひいじじの家族だけで、夜逃  
げするように逃げ出してきた  
のだろうか。そうは思いたく  
なかった。

出来事は敗戦直前、その街、  
その村、場所はどんな雰囲気、  
空気なんだろうか。想像もで  
きない。家族だけは守りたか

つたとすれば、夜逃げのように逃げる以外の選択肢はなかったのかも知れない。きわめて緊迫し、呼びかけている時間的余裕などなかったかもしれない。

「ずるい」「きたねえ」などという言葉など平和なときの言葉かもしれない。

しかしその時、ひいじじにそれ以外の選択肢は考えられなかったかもしれないが、後に、残された人々の苦難を聞かされれば、まったく心の痛みを感じなかったとは思えない。後悔もあつたかもしれない。逃げ遅れてしまった人々を、思いやる心がなかったとは思いたくもない。

「いつまでぼうつとしてるんだ。さっさと署名しろ」

その声で我に返った。声の主は、私より十歳くらい年上の会社の管理職だ。この会議室には、私とその管理職の二人しかない。

署名しろと言われた紙は、私の前のテーブルの上に置いてある。

「私は、本日の労働組合が呼び掛けたストライキには、やむなく、仕方なく参加したものであり、私の本意ではありません。以後はこうしたことのないようにいたします。

年月日 所属 氏名」

紙にはそう書いてあつた。今朝、出勤すると、会社の門前に労働組合員が数名いて、春闘の賃上げ要求実現のためのストライキに起ち上がりましょうと、ストライキ参加を呼び掛けていた。そのストラ

イキの時間は十五分だった。八時半始業だから八時四十五分までだ。出勤時刻を遅らせる。遅刻扱いで十五分間分賃金カットになる。わずか十五分でも労働組合の賃上げ要求に、賛成の意思を表示したということだ。

管理職が署名しろと言っている目の前の紙に署名すると、十五分間の賃金カット無しになる。おとがめなし。

私は書面に目を落とした。文面を見て、これを読んでひいじじを思い出したのは、署名する、しないの選択を迫られたからなのかと思った。ひいじじは生か、死かの選択だ。それと比べれば……。 「何をまた、ぼうつとしている」

会社の管理職の言葉が、ふ

たたび飛んだ。

「私は、私の意思、考えて参加しましたので、署名しません」

私は立ち上がり、椅子をテーブルの下に押し込んで、管理職に会釈し、会議室のドアに向かった。

「後悔するな」

後ろから、どすの利いた管理職の声がした。

その声を聞きながら、後悔するか、しないか、答えが出るのは明日なのか、それとも何年か先のことだろうか。本当の答えが出たと思えるのはいつのことになるだろうか。

ひいじじ、ひいばばの人生を、ぼうつと考えながら会議室を出て自分の職場に向かった。